非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2017 年 12 月 20 日　月刊第 233 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸　つなごういのち　つくろう平和世（ゆ）　中村昭一
3 面　沖縄を学ぶ　具志堅勝也
4 面　沖縄辺野古新基地ツアー報告　森田裕子
5 面　核兵器禁止条約と日本政府の立場　高草木博
映画「明日へ―戦争は罪悪である」金沢上映会の感想
6 面　ICAN ノーベル平和賞おめでとうアクション
7 面　<エッセー>語り継ぐとは　池田治夫
編集室より
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　広瀬勝子
非核・平和の掲示板

◇開催報告◇

二〇一七日本のうたごえ祭典inいしかわ・北陸

つなごういのち　つくろう平和世（ゆ）

中村　昭一

一一月二四日㈮～二六日㈰の三日間、『二〇一七日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸』が開催されました。二四日の特別音楽会（金沢歌劇座）に二二〇〇人、二五日の大音楽会（いしかわ総合スポーツセンター）に五五〇〇人、二四日と二六日に行われた七部門の合唱発表会とオリジナルコンサート（金沢、津幡、小松の各会場）に五五〇〇人、のべ一三二〇〇人が参加しました。

今回の祭典テーマは『つなごういのち　つくろう　平和世（ゆ）』です。「世」を（ゆ）と読むことにしたのは、沖縄の苦難を傍観することの

大音楽会は「内灘かぞえ唄」で開幕

全国合同「あかつきの空に」の感動的な大合唱

花鳥風月

このところ迂闊にTVを見ていると、とんでもない報道に気付いて唖然とする。ある放送局は先日も、日本が主導して提出した核廃絶決議文が国連総会で採択されたと報じていたが、核軍縮に取り組む表現が後退したため、支持する国が減っていることをキチンと説明していない▼表現の後退とは、歴史的な核兵器禁止条約に触れず、「核兵器のあらゆる使用」が非人道的な結末をもたらすという文言から〝あらゆる〟を削除し、NPTの核軍縮義務も、「核兵器廃絶への明確な約束」も削る等、どう見ても核保有国の意向に沿っているからだ▼報道にはこの他、米政権が強引にエルサレムを首都と認定し、安倍政権が長距離巡航ミサイルの導入を検討し、補正予算でミサイル防衛関連費用を計上し、原子力機構が放射性廃棄物の処分方法の具体策を後回しにして「もんじゅ」廃炉計画を提出し、大飯原発控訴審が結審する等、大課題が続いている▼国内では、総選挙疲れで世論の反応が鈍いうちに片付けてしまえという思惑が垣間見える。言うまでもなく報道の責任は重い。迂闊でない民意の積み上げによって、キナ臭い人類の先史時代に別れを告げる平和の鐘を、この国の空に鳴らす他ない。（中）

となく我がこととして寄り添う立場からです。刻々と変化する世の中であっても、〝いのちの継続〟より尊ぶべきことはなく、武力の保持も行使もない〝平和世〟を求めることが、人類の大道だからです。

内容水準が問われる初日の特別音楽会では、富山県立南砺南高校郷土芸能部の皆さんによる素晴らしい郷土芸能で幕開けとなり、歓迎合唱として、地元石川の風土と生活文化を表現した混声合唱組曲「水の旅」を作曲者自身の指揮で初めて全曲を歌い上げ、さらに続いて地元の若き声楽家である小泉詠子さんによる素晴らしい独唱や、最終盤にアンサンブル金沢の管弦楽とともに人類愛の名曲「アメイジング・グレイス」を大合唱で歌い上げるなど、この催しに相応しいものとなりました。

梅原司平さんと「折り鶴」を歌う

『原発ＮＯ！福島をわすれない』ステージの熱演

音楽愛好者が多数集い、祭典らしく歌い交わす二日目の大音楽会では、核兵器廃絶を求めて梅原司平さんが「森羅万象」と「折り鶴」を歌い上げ、福井の仲間が中心の『原発ＮＯ！福島をわすれない』ステージには、中嶌哲演さんの語りと一体に、福島を忘れず、故郷の海、山、生活を取り戻したいという願いと、原発を子どもたちに残さない、という決意が込められました。

また大音楽会では、『沖縄からの訴え』の時間を設け、沖縄のうたごえ協議会の方から、高江や辺野古でのたたかいを我が事として受け止め、オール沖縄への支援の輪を広げてほしい、という力強い訴えがありました。

そして、そのような沖縄と連帯して歩もうという機運の下で、全国合同「あかつきの空に」「共に生きる町」「町」の大合唱となりました。特に、曲「あかつきの空に」は、♪二七度線を／突き破り／喜び溢れる／勝利の知らせ、という歌詞があり、万感胸に迫る場面となりました。この時代に生きる全ての皆さんに届けとばかりに感動的に歌い上げられ、大音楽会の一つの山場となりました（第一面写真）。

うたごえ祭典にオーケストラが登場したのは稀有なことで、これが今回の魅力の一つでした。アンサンブル金沢によるモーツァルトにより、音楽的な雰囲気が醸し出された後、フィナーレとして、うたごえ運動の定番の名曲「青い空は」、さらに次回開催地（東京）へ引継ぎ、「ふるさと」をステージと会場が一体となり歌い上げて、大音楽会の幕が下りました。

〝日本のうたごえ祭典〟の契機となった内灘闘争の歴史を持つ当地は、うたごえ運動の基盤が弱い地域ですが、今回の祭典はこの地にもそれがしっかりと息づいていることを示すものとなった、と信じています。

（祭典運営委員長）

中嶌哲演さんの渾身の語りと訴え

フィナーレ・引継ぎと「ふるさと」の大合唱

（写真は「うたごえ新聞社」提供）

□講演要旨□

沖縄を学ぶ

元琉球朝日放送報道局長
具志堅勝也

講師の具志堅勝也さん

普天間基地返還　日米合意の経緯

辺野古新基地建設が大きな問題になってきた背景は、一九九五年九月の米兵三人による少女暴行事件がある。それまでは沖縄の米軍基地は経済面や安全保障のために必要と主張していた自民党など保守勢力も一緒になり、同年一〇月に県政史上初めて保革合同による抗議の沖縄県民総決起大会が開かれ、八万五〇〇〇人が参加した。この動きに日米安保条約の存続に危機感を覚えた橋本総理は、大田知事に緩和策を相談したとき、大田知事は〝世界で一番危険な〟普天間基地の返還を要求した。

一九九六年二月、日米首脳会談で橋本総理はクリントン大統領に「普天間基地の返還」を申入れ、わずか二カ月後の同年四月に「普天間基地の返還」を日米で合意、発表された。しかし、この日米合意は県外への移設ではなく、県内移設という条件が判明した。さらに同年一二月には名護市辺野古での海上基地建設で日米合意している。これが「普天間基地返還　日米合意」の経緯であり、二〇〇四年四月から国が辺野古沖のボーリング調査に着手し、辺野古新基地建設に反対する沖縄県民の阻止行動が今日まで続いている。

辺野古新基地は昔から青写真があった

一九六六年九月作成の「琉球諸島沖縄における米海軍マスタープラン」によると、辺野古崎にタンカー接岸可能な港湾と海兵隊飛行場を建設する計画があった。辺野古の大浦湾は五〇～六〇mの深さがあり、浚渫工事の必要がない港湾である。しかしこの計画はベトナム戦争による経費増で立ち消えになっていた。老朽化した普天間飛行場を閉鎖し、「辺野古新基地建設」の計画は五〇年前のこのマスタープランの復活に他ならない。

大田知事が要求した「普天間基地の返還」を日米両政府は「辺野古新基地建設」にすり替えて〝普天間の危険性除去のため〟を口実にしてきた。辺野古への移設にこだわる理由はここにある。

海上からの石材搬入

新基地の護岸工事は、土砂量で東京ドーム一〇杯分、一〇トン車で三四〇万台が必要。現在まで米軍キャンプシュワブ前での反対住民による阻止行動により、地上からの搬入は一日二〇〇台であり、一〇トン車で計算すると四六年もかかる。このため二〇一七年一一月、国は新たに海上からの土砂搬入による埋立工事に着手した。

沖縄県が土砂を搬出する国頭村奥地区の港湾使用を許可したため、埋立工事が急ピッチで進行していることに地元住民から疑問の声が挙がっている。翁長知事は現在、岩礁破砕許可をめぐって国と係争中であり、今回の港湾使用を不許可にすると国は当然裁判に訴えるため、もう一つ裁判を抱えることになる。

裁判中は埋立工事はストップされるが、司法の現状では敗訴になる可能性が大きい。このため翁長知事は港湾使用許可の取り消しとともに、最後の切り札として「埋立承認」を撤回する時期を慎重に検討している。

建設工事強行の裏で何が起きているのか

ひと言でいえば無法地帯です。防衛省、海上保安庁、警察、司法もやりたい放題です。

◇機動隊員による差別用語、暴言

座り込みの住民たちを「土人」「シナ人」と暴言を吐く。

◇沖縄平和運動センターの山城博治議長の不当逮捕、警察の暴力

二〇一六年一〇月、防衛省が設置した有刺鉄線を切断し、器物破損容疑で現行犯逮捕、被害額は二〇〇〇円で本来は一泊止まりのはず。同年一二月、二カ月前に防衛局職員の肩を掴んで揺さぶり頚椎捻挫等を負わせた傷害容疑で再逮捕。同年一一月、八カ月前にゲート前にブロックを積み工事車両を妨害した威力業務妨害容疑で再々逮捕した。微罪にもかかわらず五カ月間に渡る長期拘留。その間、家族ですら接見禁止とし、保釈後、現在係争中のため、座り込み現場に参加できない状態が続いている。

新基地建設反対の座り込み参加者への機動隊による暴力、人権侵害は日常茶飯事であり、参加者へのアンケート調査で、「機動隊による暴力行為があった」と回答した人は七割を超えている。

先日もキャンプシュワブ前の座り込み現場にてマイクで訴えていた瀬

長和男氏（沖縄統一連事務局長、瀬長亀次郎の孫）が機動隊に一時拘束される事件が起きた。二〇一七年七月一一日に施行された改正組織犯罪処罰法（「共謀罪」法）をたてに辺野古新基地建設の反対運動の弾圧がねらわれている。

◇防衛省が珊瑚死滅を放置

防衛省は珊瑚の死滅を二カ月間も放置して、珊瑚が九割方死んだ段階で沖縄県に調査結果を報告した。

◇防衛省による海上警備費の不正支出

会計検査院の調査により、防衛省は民間の警備会社と一日五万円で契約しているが、実際には一万五〇〇〇円しか支払われていない。残りの差額は利権疑惑が問われている。

負けない方法は、勝つまであきらめないこと

来年一月に稲嶺進市長が三選をめざす名護市長選挙（一月二八日告示、二月四日投票）がある。沖縄の公明党は辺野古新基地建設は容認できないと前回の名護市長選挙では自由投票だった。今回は公明党がどう動くのかが大きなポイントになる。また一一月には翁長知事が「オール沖縄」で再選をめざす県知事選挙がある。

国は新基地建設の反対運動を諦めさせるため、表面的な埋立工事を強行しているが、沖縄県民は勝つまで諦めずに闘い続けていく。このような沖縄の現状をぜひ広めていただきたい。

（非核・いしかわ編集部）

◎一一月二七日、近江町交流プラザで開かれた「沖縄連帯シリーズ『沖縄を学ぶ』学習講演・DVD上映会」の講演要旨です。主催＝石川県平和委員会・安保廃棄石川県実行委員会、協力＝NPO法人「未来塾・大人の学び」

沖縄・辺野古新基地ツアーの報告

嘉数展望台・瀬嵩の浜・キャンプシュワブゲート

森田裕子

辺野古新基地ツアーで嘉数展望台、辺野古瀬嵩の浜、キャンプシュワブゲートを訪れた。マイクロバスで移動しながら平和ガイドの与儀喜一郎氏（沖縄県平和委員会）に沖縄の基地の歴史と現状を教わった。

宜野湾市の非核宣言標柱

普天間基地を一望できる嘉数展望台

初めに嘉数展望台で普天間基地を一望した。ちょうど米軍の一行も勉強に来ていた。基地は住宅地に囲まれ、滑走路が遠くの方まで延び、視界の大部分を占めた。基地の中ほどに戦闘機が十数機停まっていた。基地の南西には二〇一六年公開の米国戦争映画「ハクソーリッジ」の舞台となった崖が見え、その斜面には戦死者を弔う白い墓石が多数並んでいた。基地が住宅街を分断しており、総合病院が片側にしかないこの街では、時に救急搬送に支障をきたす。また住宅街の真上を戦闘機が飛び交うため、極めて危険である。このような事態は法的に本国では許されていない。二〇〇四年に米軍ヘリ墜落事故があった沖縄国際大学は、基地の右手すぐ先にあった。

戦前日本政府が天然記念物に指定するほどの松並木三千本があった街は今や見る影もない。残された写真のみが当時の面影を語る。戦後、沖縄の住民が強制収容所にいる間に「銃剣とブルドーザー」によって米軍に土地が強制的に奪われ基地がつくられた。日本軍が時間稼ぎをしたこの地は激戦区となり、多くの住民や軍人が命を落とした。その歴史を物語る石碑が建てられている。

珊瑚や貝殻が打ち上げられた辺野古瀬嵩の浜

次に訪れた辺野古瀬嵩の海は、一面青空を映し出していた。遠方に護岸工事現場があり、右手には核弾頭庫疑惑が報道された倉庫が見えた。工事現場で使用される巨大なクレーンは、ほぼすべてが県外の建築会社の物である。なぜなら沖縄県内の零細企業ではクレーンなどの大型の機械を用意できないからだ。護岸工事に必要な大量の土砂さえも、県外からの搬入が予定されている。搬出元となっている県外の各地では地元の土砂が基地建設に使われることへの反対運動が起きている。ツアーの残された時間で砂浜の綺麗な珊瑚や貝殻を拾った。

米軍キャンプシュワブゲート前にてツアー参加者と瀬長和男氏（前列左端）

非暴力の座り込みを続ける キャンプシュワブゲート前

座り込み現場では、戦後の米軍支配に立ち向かった瀬長亀次郎氏のお孫さん、瀬長和男氏から説明を受けた。非暴力の座り込みを続ける彼のそばには、「新基地断念まで座り込み抗議不屈１２１６日」と書かれた看板が立っていた。当日は公休日で土砂搬入がなかったため、ゲート前での搬入を防ぐ座り込みはなかった。ゲート前には某警備会社の警備員が一〇人程度肩を並べて立っていた。警備会社は反対派に感情移入することを防ぐために県外出身者を多く採用しているそうだ。海上とゲートの警備費用に二千万円／日、六億円／月もの税金が投入されている。ヘリパッド建設の九四億円のうち六割が警備費用だという。監視カメラと機動隊の車の前で記念撮影し、「愛の反対は無関心」と書かれたブロックを横目にホテルに戻った。

座り込み現場の立て看板

（2017年11月3日）

座り込み現場で瀬長和男さん（左）の説明を聞きました

沖縄の「七二年間の闘い」

沖縄では基地が身近にある。住民は、度々事件を起こす米兵、毎週のように発見される不発弾に否が応でも慣らされ、騒音被害、流れ弾、戦闘機墜落の危険が存在する中を日々生きている。与儀氏、瀬長氏双方が口にした言葉として「七二年間の闘い」というのがあった。われわれが住む「本土」では「戦後七二年」とは言ったとしても、「闘い」とは決して表現しない。沖縄の人たちの七二年間続く苦しみ、痛み、怒りに果たしてどれほど耳を傾けてきただろうか。沖縄への無関心が基地という差別を生み出してはいまいか。基地が日常でなくなってしまった私たちに問いかけられている。

（城北病院第一期研修医）

◎一一月二日～四日、石川県保険医協会が行なった「沖縄・辺野古新基地座り込みツアー」の参加報告です。

ＩＣＡＮノーベル平和賞受賞「おめでとうアクション in 金沢」の開催報告

小野栄子

二〇一七年一二月一〇日。ＩＣＡＮのノーベル平和賞授賞式の朝は、冬の金沢には珍しく、青く澄み切った空が広がりました。あの時黒い涙を流した空も、ＩＣＡＮの受賞を祝福してくれたのかもしれません。

石川県原爆被災者友の会など、県内七団体で構成する「反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会」は、この日午前一〇時半から近江町市場前で、ＩＣＡＮノーベル平和賞受賞記念「おめでとうアクション in 金沢」を行いました。核廃絶運動が次世代に受け継がれていることを象徴するかのように、被爆者や二世、大人から子どもまで幅広い世代約三〇人が集いました。

「おめでとうマイクリレー」では、企画の発起人である核戦争を防止する石川医師の会代表世話人の白﨑良明さんや石川県原爆被災者友の会会長の西本多美子さんら七人が、ＩＣＡＮの紹介や被ばくの実相、「ヒバクシャ国際署名」への協力を訴えました。

そして、「ノーベル平和賞受賞者はＩＣＡＮだけではありません。被ばく者の皆さん、そして、こういった活動を進めてきた皆さんも受賞者です。皆さん、おめでとう！」と伝えると、参加した子どもたちは「俺らも受賞者なん？！やったー！」と大喜び。私たちの喜びが伝染したかのように、街ゆく人にも笑顔が溢れていました。

この日のために準備した「おめでとうグッズ」（メッセージ付きポケットティッシュやＩＣＡＮ発行のブックレットなど）三〇〇個は子どもたちの活躍で瞬く間になくなり、集約したヒ

「ＩＣＡＮおめでとうアクション」参加の皆さん

（１２月１０日、近江町市場館前）

バクシャ国際署名は一〇四筆、募金六五〇〇円。約一時間の行動は、名残惜しく終了しました。

さあ、皆さん。ＩＣＡＮは既に、すべての国に核兵器禁止条約への署名・批准を促すための新しいキャンペーンを開始しています。私たちもＩＣＡＮのCampaigner(運動家)になり、核のない未来に向かって歩みをさらに進めましょう！ＤＶＤ『この空を見上げて～石川・被爆者たちの証言～』と「ヒバクシャ国際署名」を携えて。

最後に、「おめでとうアクション」を前に行った記者会見（一〇月八日、反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会主催）で西本多美子さんが話された内容（要旨）を紹介して報告を終えます。

◇ＩＣＡＮは世界中の草の根で活動する若い人たちの団体。ＩＣＡＮの受賞は被爆者の運動が次世代に引き継がれたことを意味する。本当は授賞式のあるノルウェー・オスロに行きたかったが、体がついていかなかったのが残念でならない。

◇高齢の被爆者に残された時間は少ない。将来をになう若い人たちとともに、核兵器を全てなくすために、被ばくの実相を伝え続けていきたい。

（核戦争を防止する石川医師の会事務局）

マイクで署名を呼びかける西本多美子さん

非核・平和のひろば

非核の政府を求める会
「核兵器禁止条約の力と非核の政府を語る」シンポジウムを開催

一二月九日、東京都内で開催されたシンポジウムの報告概要は本会ＨＰに掲載した。

パネラーを務めた日本原水協代表理事の高草木博氏の発言要旨を紹介する。

「核兵器禁止条約の最大の成果は、国連憲章や国連総会第一号決議などとの法的ギャップを埋めたことにある。国連総会での『多国間核軍縮交渉の前進決議』は一二五カ国が賛成（禁止条約の採択は一二二カ国）した。反対は三九カ国でＮＡＴＯ加盟国プラス日本や韓国やオーストラリアだった。日本決議は、一二月五日の国連総会で第一委員会の決議一四四カ国から一五六カ国に増えたと外務省は強調しているが、この決議には大きな問題がある。この日本決議についてスウェーデンとスイスが、投票理由説明という形で発言し、自分たちは賛成票を投じるが、この決議案には重大な懸念があり議事録にとどめざるを得ないとして、いくつかの点を指摘した。両国は日本決議の中の、ＮＰＴの合意文書である『**核兵器の廃絶を達成するという核保有国の明白な任務**を再確認する』という内容を『**核保有国のＮＰＴ条約の完全な履行**という任務を再確認する』という文言に変えた点、さらに、『核兵器の**あらゆる**使用の壊滅的な人道上の結末への深い懸念』という、**あらゆる**（any use）の any を削りuseにしてしまった点などを指摘し、これまでのＮＰＴの合意レベルを低下させてはいけないと釘を刺した。日本政府は、核兵器国と非核兵器国との橋渡しをするといいながら、核兵器国の代弁者としての役割を果たしている」と日本政府の立場を批判した。

劇映画「明日へ―戦争は罪悪である」金沢上映会の感想

劇映画「明日へ　戦争は罪悪である」の自主上映が一一月一一日津幡会場を皮切りに同二六日加賀会場、同三〇日金沢会場等、連続して開催されており、来年一月二九日輪島会場まで県内一三会場で計画されています。

一一月三〇日、金沢二一世紀美術館地下シアター21で開かれた金沢会場（一日三回上映）には約一八〇人の参加者があり、多数の感想文が寄せられたので紹介します。

◇身に沁み、胸打たれる映画でした。黙っていては賛成しているのと同じだと云われた和尚さんの言葉。勇気を出して今後とも運動に関わっていこうと思います。

◇命は一番尊いもの　↓　戦争は罪悪　↓　一生懸命に語りかける和尚の姿に涙が出ました。今の憲法改悪―〝戦争をしたがる政権に絶対反対〟と言い続けたいです。

◇時代の波に流されず、真実を考えつづけ、行動できる自分でありたいと思います。

◇三歳の娘がいます。来年一月二人目が産まれる予定です。私たち若い世代が観るべき映画だと思いました。「時

代にのみこまれるな」師匠の言葉がとても印象に残りました。

◇　◇　◇

特に多かったのは、「この映画を平成生まれの若い人たちに是非観て頂きたく思います。上映のために協力できることはないでしょうか？」「是非若い人たちに見て頂きたい作品です。PRします」「深い感動を与える、今の時点で重要な内容をなげかける映画でした。広めたいと思っています」などこの映画鑑賞を広めたいとの感想でした。後半の一月の各地上映会の盛会に繋げていきたいものです。

映画「明日へ―戦争は罪悪である」上映実行委員会

映画「明日へ-戦争は罪悪である」上映会(後半)

開催日	曜日	会場	上映時間	上映時間	上映時間
1月13日	土	コスモアイル羽咋 小ホール	10:00	―	―
1月20日	土	内灘町文化会館 3階視聴覚室	―	13:30	―
1月20日	土	こまつ芸術劇場うらら 小ホール	―	13:30	―
1月27日	土	能美市根上総合文化会館 円形ホール	―	13:30	―
1月28日	日	金沢21世紀美術館 B1シアター21	10:00	13:30	18:30
1月29日	月	元気ハウス(輪島診療所隣り)	―	13:30	17:30

非核石川の会リレーエッセー

語り継ぐとは

池田治夫

今年は反核運動にとって素敵なニュースが続いた。七月国連で核兵器禁止条約案が採択、九月総会で締結され、現在各国の署名・批准の手続きが進められている。一二月にはICANにノーベル平和賞が授与された。これらを実現させる上で、被爆者の体験を語る運動が力になったと繰り返し述べられた。平均年齢八一歳を超えた被爆者は、核禁条約締結は廃絶に向けた新たな「スタート」であることを覚悟している。ではこれから先、誰が「核保有国」や「核に依存する国々」を相手にした運動のなかで被爆の実相を語るのか、そこに被爆者の悩みがある。

今年六月、石川県原爆被災者友の会は被爆証言DVD「この空を見上げて」を完成させ、県内全ての学校・図書館・自治体に寄贈した。配布したのが六月以降になったため学校の夏行事に間に合わなかったという事情はあるものの、少しづつ反響が寄せられるようになってきた。「ぼくは、ほうしゃせんをあびてがんになるなんて思っていませんでした。けんぽうのきゅうじょうが本当にいいなと思いました（二年）」、「今日は、戦争について知れてよかったです。ばくだんは、こんなにもこわいものだと分かりました。わたしたちが、平和な世界をキープしていきたいです（四年）」「今日は戦争のこわさ、平和の大切さについて教えていただきありがとうございました。西本さんの話を聞き、戦争を二度とくり返してはいけないこと、平和な今をずっと保っていくことが大切だということが改めてよく分かりました。これからも、戦争のこわさを忘れずに、後に伝えていきたいです（六年）」等々。子どもの目と耳で聞いた素直な感想である。教育の大切さを実感させられる。

先日、日本被団協で五年ぶりに全国二世交流会が持たれ、二〇県から約四〇名が集まって被爆者運動の継承をテーマにして話し合った。一〇年以上も前に二世の会を立ち上げたが活動のマンネリ化に苦労しているところ、最近立ち上げたばかりでどう運営するか相談したいというところ、これからと決意表明するところなど到達点はまちまちであったが、全国的にはやっと半数の県が手探り状態で動き始めたと実感できた交流会であった。

二〇一七年末にあたって、「語り継ぐ」活動において、いよいよ私たちの実践が試されていると実感している。来年こそ貴重な教材を活用したい。

（石川県原爆被災者友の会事務局長・二世部会世話人）

《編集室より》

◎建築界に身を置くことになったのは昭和三七年の春だった。翌正月、いわゆる「三八豪雪」に見舞われバスも電車も動かず、通勤は片道三時間の「雪中行進」だった。その建築界での恩師は「泣く子も黙る大蔵管財」出身と先輩に教えられた。大蔵技官だった恩師の言葉に「納税は国民の義務である」があった。それから約五十年。納税された税金の使い方、使われ方を決める国会での審議は、いまや「政策審議会」などという国会外の審議（？）に置き換わり、国会はまさに審議抜きの「速やかな議決」こそが新たな「機能」となったのか！。国会での多数議席が小選挙区制という虚構によって配分された「多数」であるとすれば、ここでの「議決」こそ国民にとっては新たな「虚構×虚構」となるであろう。（こ）

シリーズ 石川の地域点描 ⑮

フォトグラファー　中西　優

このコラムを担当させていただいて一年余りが経ちました。昨年の会報を見直していますと一二月には同じく白鳥の写真を紹介していました。どこか新年を感じさせてくれ、石川県にとってもなじみの深い鳥なので撮影しました。

来年もみなさまにとって飛翔の年となり、社会が明るくなるような年でありますように。

夜明けとともに餌場に飛び立つコハクチョウ＝河北潟・かほく市

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　広瀬勝子

雪山の間から輝く朝日＝内灘町・蓮湖渚公園

非核平和の掲示板

	日	曜	時	内　　容	場　　所
1	1	月	10:00	核廃絶署名元旦行動	金沢市尾山町・尾山神社
	9	火	12:30	核廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	10	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	13	土	10:00	映画「明日へ　戦争は罪悪である」羽咋上映会	羽咋市・コスモアイル羽咋　小ホール
	14	日	11:00	平和サークル「むぎわらぼうし」一品持ち寄り新年会	金沢市香林坊・石川県教育会館2階第一会議室
	20	土	13:30	映画「明日へ　戦争は罪悪である」内灘上映会	内灘町・内灘町文化会館　3階視聴覚室
			13:30	映画「明日へ　戦争は罪悪である」小松上映会	小松市・こまつ芸術劇場うらら　小ホール
	24	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	27	土	13:30	映画「明日へ　戦争は罪悪である」能美上映会	能美市・根上総合文化会館　円形ホール
	27	土	14:00	NPO法人未来塾・大人の学び／市民講演会　中北浩爾さん	金沢市鞍月2丁目・地場産業振興センター本館5階
	28	日	10:00	映画「明日へ　戦争は罪悪である」金沢上映会 （2回目　13:30、 3回目 18:30）	金沢市広坂・21世紀美術館　B1階シアターホール
	29	月	13:30	映画「明日へ　戦争は罪悪である」輪島上映会 (2回目　17:30)	輪島市堀町・輪島診療所　元気ハウス
2	3	土	12:30	映画「日本と原発4年後」上映とトークin金沢	金沢市三社町・石川県女性センター1Fホール
	3	土	13:30	現代に生きる「資本論」講演　友寄英隆さん	金沢市武蔵町・ITプラザ武蔵5階研修室
	7	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	18	日	13:00	北陸原水協学校inふくい／特別講演　藤森俊希さん	福井市大手町・福井県教育センター
	21	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	25	日	14:00	子どもと教育を考えるつどい　俵義文さん	加賀市作見町・アビオシティ加賀　研修室
27日（火）～3/1（木）				3・1ビキニデー	静岡県焼津市
3	10	土	18:00	石川県保険医協会総会記念講演　木村草太さん	金沢市三社町・石川県女性センターホール

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー